

The TORAY logo is displayed in a bold, blue, sans-serif font. The letters 'T' and 'Y' have a distinctive slanted top edge. The logo is positioned in the upper right area of the slide, above the tagline.

Innovation by Chemistry

2021年3月期決算の概要と 2022年3月期見通しについて

2021年5月13日

東レ株式会社

2021年3月期の第1四半期から国際財務報告基準(IFRS)を適用しております。また比較年度数値についても、IFRSに準拠して表示しております。

目次

I. 2021年3月期決算の概要	3
II. 2022年3月期連結業績見通し	17
III. 中期経営課題“プロジェクト AP-G 2022”の進捗状況	22
IV. サステナビリティへの取り組み	30
V. 参考資料	35

I . 2021年3月期決算の概要

2021年3月期連結損益概要

億円

	20年3月期	21年3月期	増減
売上収益	20,912	18,836	-2,076 (-9.9%)
事業利益	1,255	903	-353 (-28.1%)
(売上収益事業利益率)	6.0%	4.8%	-1.2 ポイント
非経常項目	▲ 108	▲ 344	-236
金融収益及び費用	▲ 21	▲ 31	-10
持分法による投資利益	107	128	+21
税引前当期利益	1,233	656	-577 (-46.8%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	842	458	-384 (-45.6%)

基本的1株当たり当期利益	52.65円	28.61円
1株当たり配当金	16.00円	9.00円

ROE	7.5%	3.9%
ROA	4.5%	3.2%

為替レート		(20/3)	(21/3)
<円/US \$>	期中平均	108.7	106.1
	期末	108.8	110.7
<円/ユーロ>	期中平均	120.8	123.7
	期末	119.6	129.8

非経常項目

億円

	20年3月期	21年3月期	増減
固定資産売却益	30	3	-27
固定資産処分損	▲ 62	▲ 58	+4
減損損失	▲ 76	▲ 289	-213
その他	▲ 1	-	+1
非経常項目	▲ 108	▲ 344	-236

資産・負債・資本、フリー・キャッシュ・フロー

億円

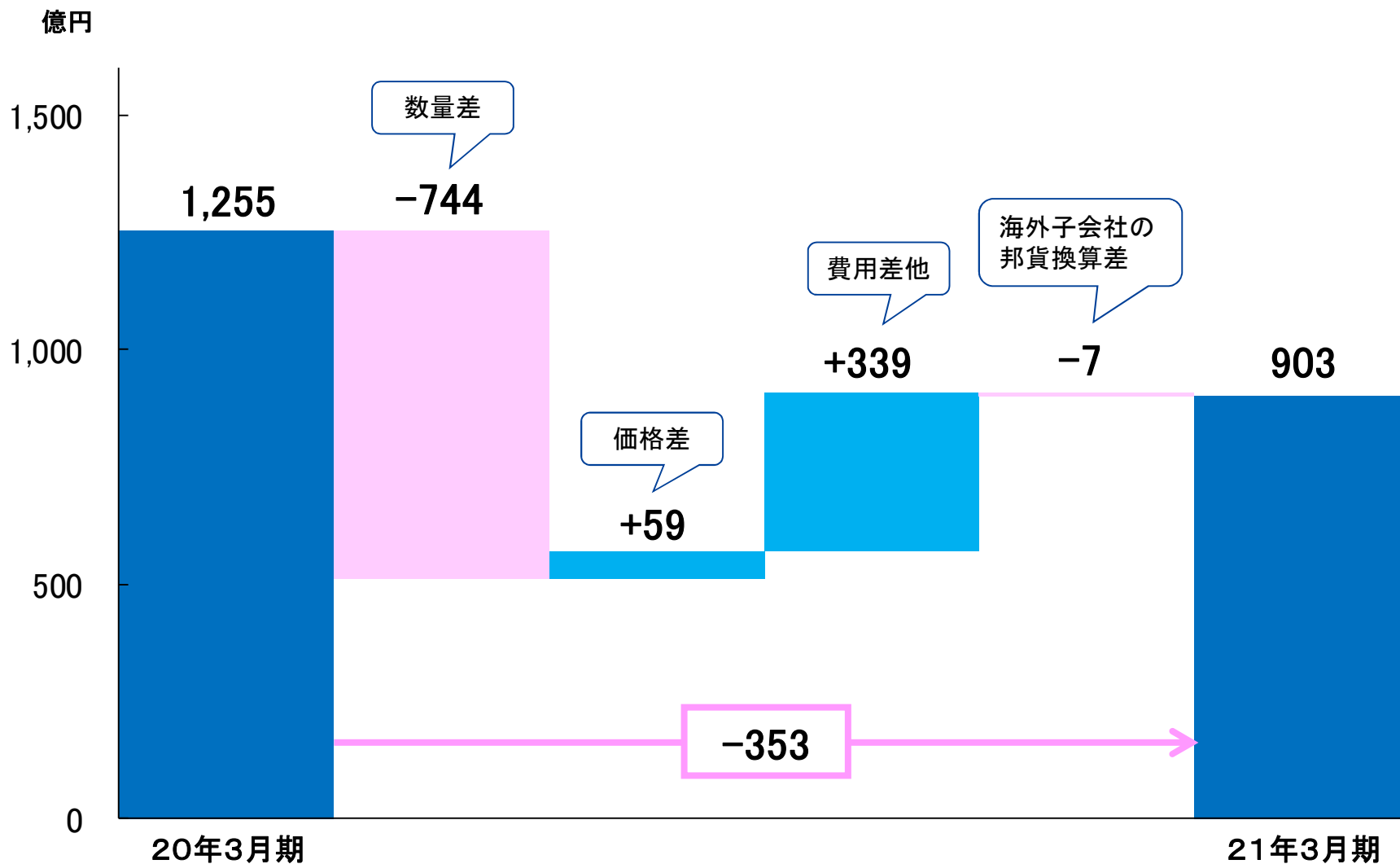
	20年3月末	21年3月末	増減
資産合計	27,335	28,488	+1,153
流動資産	11,519	11,810	+291
有形固定資産	9,692	9,984	+292
その他	6,124	6,694	+570
負債合計	15,327	15,266	-61
流動負債	6,760	6,814	+54
非流動負債	8,567	8,452	-115
資本合計	12,008	13,223	+1,214
自己資本*	11,161	12,379	+1,218
自己資本比率*	40.8%	43.5%	+2.6ポイント
有利子負債残高	9,910	9,739	-171
D/Eレシオ	0.89	0.79	-0.10

<フリー・キャッシュ・フローの状況>

	20年3月期	21年3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,383	2,116	-267
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,429	▲ 979	+450
フリー・キャッシュ・フロー	954	1,137	+183

* 自己資本＝親会社の所有者に帰属する持分

事業利益増減要因分析



セグメント別売上収益・事業利益

億円

		20年3月期			21年3月期			増減		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上 収益	繊維	4,223	4,087	8,310	3,302	3,890	7,192	-920 (-21.8%)	-197 (-4.8%)	-1,117 (-13.4%)
	機能化成品	3,941	3,671	7,612	3,273	3,931	7,204	-668 (-16.9%)	+260 (+7.1%)	-408 (-5.4%)
	炭素繊維複合材料	1,199	1,170	2,369	893	936	1,829	-306 (-25.5%)	-234 (-20.0%)	-540 (-22.8%)
	環境・エンジニアリング	872	1,036	1,908	782	1,153	1,935	-90 (-10.3%)	+117 (+11.3%)	+27 (+1.4%)
	ライフサイエンス	266	265	530	247	283	530	-19 (-7.1%)	+18 (+7.0%)	-1 (-0.1%)
	その他	90	92	182	63	82	146	-27 (-29.9%)	-10 (-10.6%)	-37 (-20.1%)
	合計	10,591	10,321	20,912	8,561	10,275	18,836	-2,030 (-19.2%)	-46 (-0.4%)	-2,076 (-9.9%)
事業 利益	繊維	317	279	596	158	208	366	-158 (-50.0%)	-72 (-25.7%)	-230 (-38.6%)
	機能化成品	332	213	545	241	429	670	-92 (-27.6%)	+216(+101.4%)	+124 (+22.8%)
	炭素繊維複合材料	118	108	226	▲ 3	▲ 72	▲ 75	-121 (-)	-180 (-)	-301 (-)
	環境・エンジニアリング	38	68	106	40	106	145	+2 (+4.4%)	+38 (+56.2%)	+40 (+37.5%)
	ライフサイエンス	11	▲ 6	5	8	5	13	-2 (-22.9%)	+11 (-)	+8(+170.9%)
	その他	14	22	36	6	24	29	-8 (-58.8%)	+2 (+7.4%)	-7 (-18.2%)
	調整額	▲ 115	▲ 143	▲ 258	▲ 109	▲ 137	▲ 246	+6	+6	+13
	合計	714	541	1,255	341	562	903	-373 (-52.3%)	+21 (+3.8%)	-353 (-28.1%)

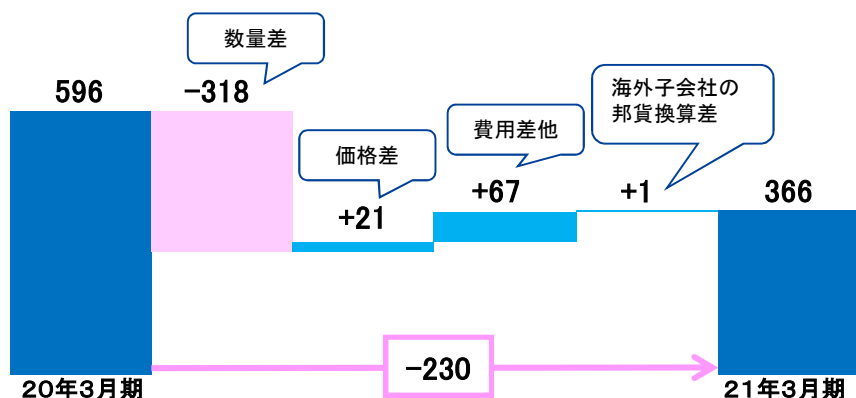
セグメント別業績(繊維)

億円

		20年3月期	21年3月期	増減
売上収益	東レ	1,815	1,459	-356 (-19.6%)
	国内	4,659	3,983	-675 (-14.5%)
	海外	4,858	4,308	-550 (-11.3%)
	修正	▲ 3,022	▲ 2,558	+464
	計	8,310	7,192	-1,117 (-13.4%)
事業利益	東レ	121	38	-84 (-69.1%)
	国内	126	97	-29 (-22.9%)
	海外	342	223	-119 (-34.9%)
	修正	6	8	+2
	計	596	366	-230 (-38.6%)

事業利益増減

億円



< 概況 >

■全般

- ・国内外ともに新型コロナウイルスによる生産活動・消費行動停滞の影響を受けた。
- ・医療用白衣地やマスク用途での不織布需要の増加に加えて、第3四半期以降に自動車関連用途において回復の動きが見られたが、総量の減少をカバーするにはいたらず。

■衣料用途

- ・各国でのロックダウンや過剰な流通在庫から需要が低迷。

■産業用途

- ・一般資材用途が低調に推移し、販売数量が減少。

<トピックス>

- ・ 21年1月：
LIVMOA®に新シリーズを追加。耐水圧タイプLIVMOA®4000を2021年1月より、クリーンルーム対応滅菌タイプLIVMOA®CL改良版を2021年2月より発売。
- ・ 21年3月：
優れた洗濯耐久性と着用快適性を有する抗ウイルステキスタイルとして2020年に開発した「MAKSPEC®V」において、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)のウイルス数減少効果を確認。

セグメント別業績(機能化成品)

億円

		20年3月期	21年3月期	増減
売上収益	東レ	2,244	2,134	-111 (-4.9%)
	国内	4,119	3,788	-331 (-8.0%)
	海外	4,698	4,772	+73 (+1.6%)
	修正	▲ 3,449	▲ 3,489	-40
	計	7,612	7,204	-408 (-5.4%)
事業利益	東レ	86	151	+66 (+76.7%)
	国内	147	116	-31 (-21.1%)
	海外	320	413	+93 (+29.0%)
	修正	▲ 7	▲ 11	-3
	計	545	670	+124 (+22.8%)

<概況>

■樹脂事業

・新型コロナウイルスによる生産活動停滞の影響を受けたが、第3四半期以降、自動車メーカーの稼働および中国経済の回復を受け、需要が好調に推移。

■ケミカル事業

・基礎原料の市況が回復傾向となった。

■フィルム事業

・リチウムイオン二次電池向けバッテリーセパレータフィルムが市況価格低下の影響を受けたが、ポリエステルフィルムでは光学用途や電子部品関連が好調に推移。

■電子情報材料事業

・有機EL関連の需要が増加。

<トピックス>

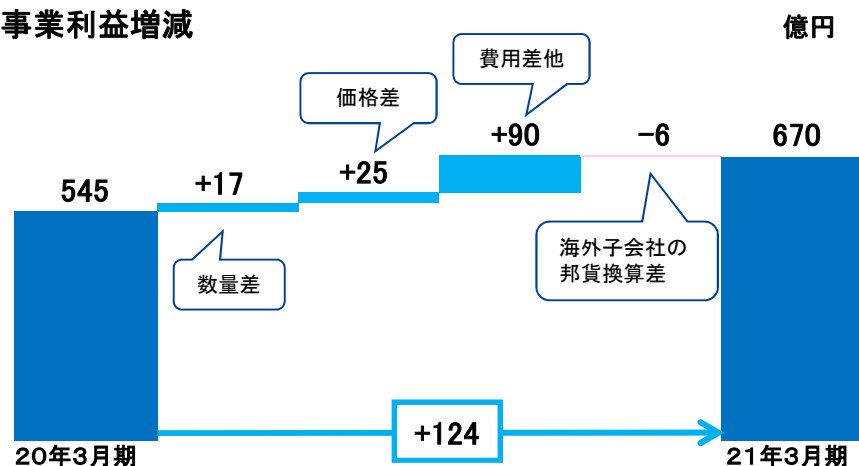
・21年1月:

ナノアロイ®による超微分散化の実現で、ポリアミド6(PA6樹脂)が持つ高い耐熱性、剛性、強度を維持しながら、疲労耐久性を従来の15倍まで高めた、しなやかでタフな新規ポリマー材料を創出。2021年度から本格的なサンプルワーク開始を目指す。

・21年3月:

二軸延伸ポリプロピレン(OPP)フィルムとしては世界最高レベルの耐熱性(加工温度120°C対応)と品位を実現した新タイプ「トレファン®」を創出。今後、適用用途の拡大を推進。

事業利益増減



機能化成品のサブセグメント別売上収益

億円

	20年3月期		21年3月期		
	売上収益	比率	売上収益	比率	増減率
樹脂・ケミカル	3,204	29%	3,092	29%	-4%
フィルム	3,109	28%	3,031	28%	-3%
電子情報材料	674	6%	678	6%	+1%
商事他	4,074	37%	3,893	36%	-4%
修正	▲ 3,449	-	▲ 3,489	-	-
合計	7,612		7,204		-5%

セグメント別業績(炭素繊維複合材料)

億円

		20年3月期	21年3月期	増減
売上収益	東レ	1,056	640	-416 (-39.4%)
	国内	738	451	-287 (-38.9%)
	海外	2,069	1,527	-542 (-26.2%)
	修正	▲ 1,494	▲ 789	+705
	計	2,369	1,829	-540 (-22.8%)
事業利益	東レ	121	▲ 44	-166 (-)
	国内	15	10	-5 (-32.2%)
	海外	127	▲ 27	-153 (-)
	修正	▲ 37	▲ 14	+23
	計	226	▲ 75	-301 (-)

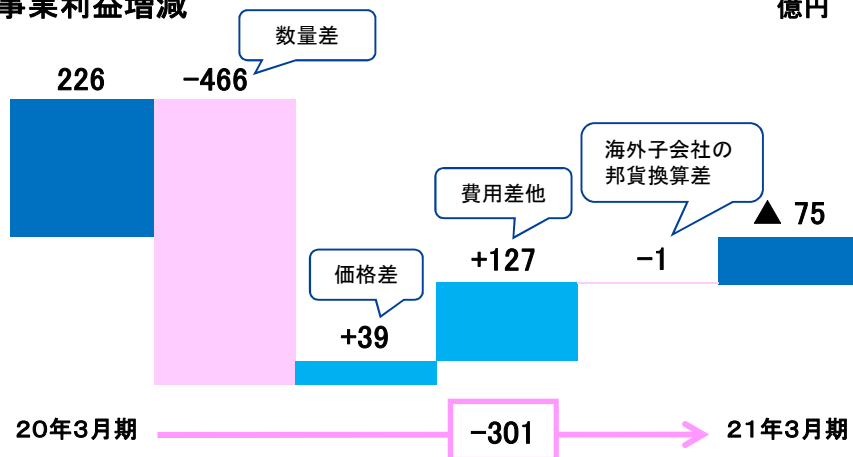
< 概況 >

■全般

- ・航空宇宙用途において、民間旅客機のビルドレートが減少した影響を受けた。
- ・一般産業用途では、風力発電翼用途が堅調に推移。

事業利益増減

億円



炭素繊維複合材料のサブセグメント別売上収益

億円

	20年3月期		21年3月期		
	売上収益	比率	売上収益	比率	増減率
航空宇宙	1,078	45%	600	33%	-44%
スポーツ	170	8%	155	8%	-9%
一般産業	1,120	47%	1,074	59%	-4%
合計	2,369		1,829		-23%

セグメント別業績(環境・エンジニアリング)

億円

		20年3月期	21年3月期	増減
売上収益	東レ	269	305	+36 (+13.4%)
	国内	2,273	2,201	-72 (-3.2%)
	海外	337	369	+31 (+9.2%)
	修正	▲ 971	▲ 939	+32
	計	1,908	1,935	+27 (+1.4%)
事業利益	東レ	▲ 8	16	+23 (-)
	国内	67	80	+13 (+19.3%)
	海外	47	55	+8 (+17.9%)
	修正	▲ 1	▲ 6	-5
	計	106	145	+40 (+37.5%)

< 概況 >

■水処理事業

・一部地域への出荷において新型コロナウイルスの影響があったが、逆浸透膜などの需要は概ね堅調に推移。

■環境・アメニティー事業

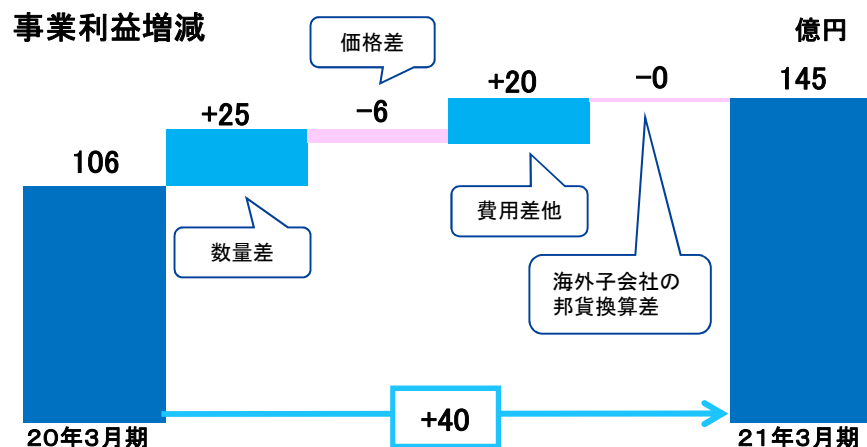
・エアフィルターの需要が好調に推移。

■国内子会社

・エンジニアリング子会社でエレクトロニクス関連装置の出荷が減少したが、建設子会社において不動産物件の完工による収益計上があった。

<トピックス>

・21年2月：
PVDF(ポリフッ化ビニリデン)製UF膜において、高ウイルス除去性と高透水性を兼ね備えた新たなUF膜を開発。今後、実用化を目指して各用途での実証を加速。



セグメント別業績(ライフサイエンス)

億円

		20年3月期	21年3月期	増減
売上収益	東レ	245	233	-12 (-5.0%)
	国内	412	434	+22 (+5.5%)
	海外	137	137	-0 (-0.3%)
	修正	▲ 264	▲ 274	-10
	計	530	530	-1 (-0.1%)
事業利益	東レ	▲ 15	▲ 22	-7 (-)
	国内	10	29	+19(+194.7%)
	海外	6	7	+1 (+14.2%)
	修正	4	▲ 1	-5
	計	5	13	+8(+170.9%)

< 概況 >

■医薬事業

・経口そう痒症改善薬レミッチ®*において、後発医薬品発売の影響を受けたほか、昨年4月の大幅な薬価改定の影響を受けた。

■医療機器事業

・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、医療機関での不急の手術先送りの影響がある中、ダイアライザーは国内外で堅調な出荷となった。

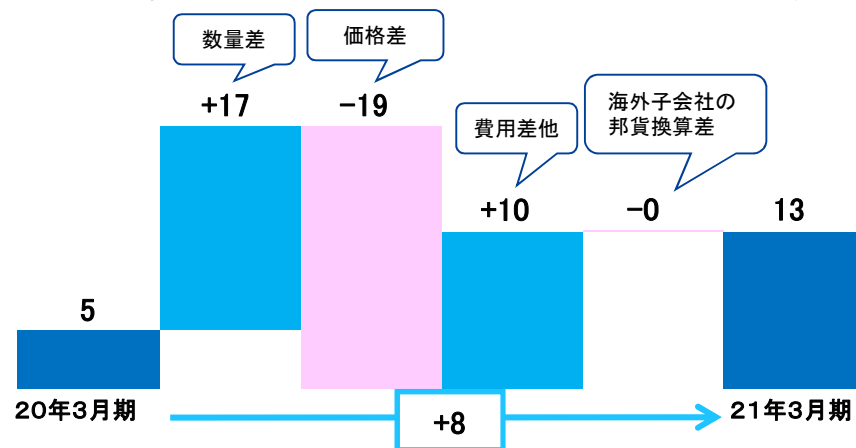
*レミッチ®は鳥居薬品(株)の登録商標です。

<トピックス>

- ・ 21年2月：
(株)ユニバーサルビューが製造販売し、(株)シードが総販売元として展開するオルソケラトロジー(角膜矯正療法)レンズ「ブレスオーコレクト®」の生産体制を滋賀事業場内に構築。
- ・ 21年3月：
(株)ジョリーグッドと共同で、発作性心房細動治療用カテーテル・アブレーションシステム「HotBalloon™」の手技体験VRを開発。
- ・ 21年3月：
癸巳化成(株)と口腔内崩壊錠(水なしで服用可能な錠剤)用フィルムコーティング技術RADIFIL®に関する実施許諾契約を締結。

事業利益増減

億円



主要子会社・地域の収益状況

億円

	売上収益			事業利益			
	20年3月期	21年3月期	増減	20年3月期	21年3月期	増減	
東レインターナショナル	5,755	4,995	-760	129	109	-20	
東レエンジニアリング	1,127	1,037	-90	36	41	+5	
東レ建設	434	400	-34	6	11	+4	
東レフィルム加工	375	359	-15	26	41	+15	
在東南アジア・子会社	繊維	1,357	1,000	-356	48	▲ 23	-70
	機能化成品	854	872	+19	63	183	+120
	その他	2	1	-1	0	0	-0
	計	2,212	1,874	-338	110	160	+50
在中国・子会社	繊維	2,051	1,984	-67	195	168	-27
	機能化成品	777	901	+124	32	50	+18
	その他	348	354	+6	23	31	+8
	計	3,177	3,239	+63	250	249	-1
在韩国・子会社	繊維	843	796	-47	30	68	+38
	機能化成品	1,566	1,474	-92	233	195	-38
	その他	266	227	-39	34	29	-5
	計	2,675	2,497	-178	296	292	-4

Ⅱ. 2022年3月期連結業績見通し

2022年3月期連結業績見通し

業績見通しの前提

国内外の経済は、米国の追加大型景気対策や新型コロナウイルスのワクチン普及を背景に回復を続けると見ている。ただし、感染の再拡大に伴う経済活動の制限や世界各地での変異株確認など、先行きには不透明感が強いいため、正常化への過程は緩やかなペースになることを前提としている。

億円

		21年3月期実績	22年3月期見通し	増減	
売上収益	上期	8,561	10,050	+1,489	(+17.4%)
	下期	10,275	11,150	+875	(+8.5%)
	通期	18,836	21,200	+2,364	(+12.6%)
事業利益	上期	341	500	+159	(+46.6%)
	下期	562	700	+138	(+24.6%)
	通期	903	1,200	+297	(+32.9%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	上期	45	350	+305	(+683.7%)
	下期	413	450	+37	(+8.9%)
	通期	458	800	+342	(+74.7%)
基本的1株当たり 当期利益	上期	2.79円	21.87円	為替レート的前提 105円/US\$	
	下期	25.82円	28.12円		
	通期	28.61円	49.99円		
1株当たり配当金	上期	4.50円	8.00円		
	下期	4.50円	8.00円		
	通期	9.00円	16.00円		
配当性向	通期	31%	32%		

セグメント別連結業績見通し

億円

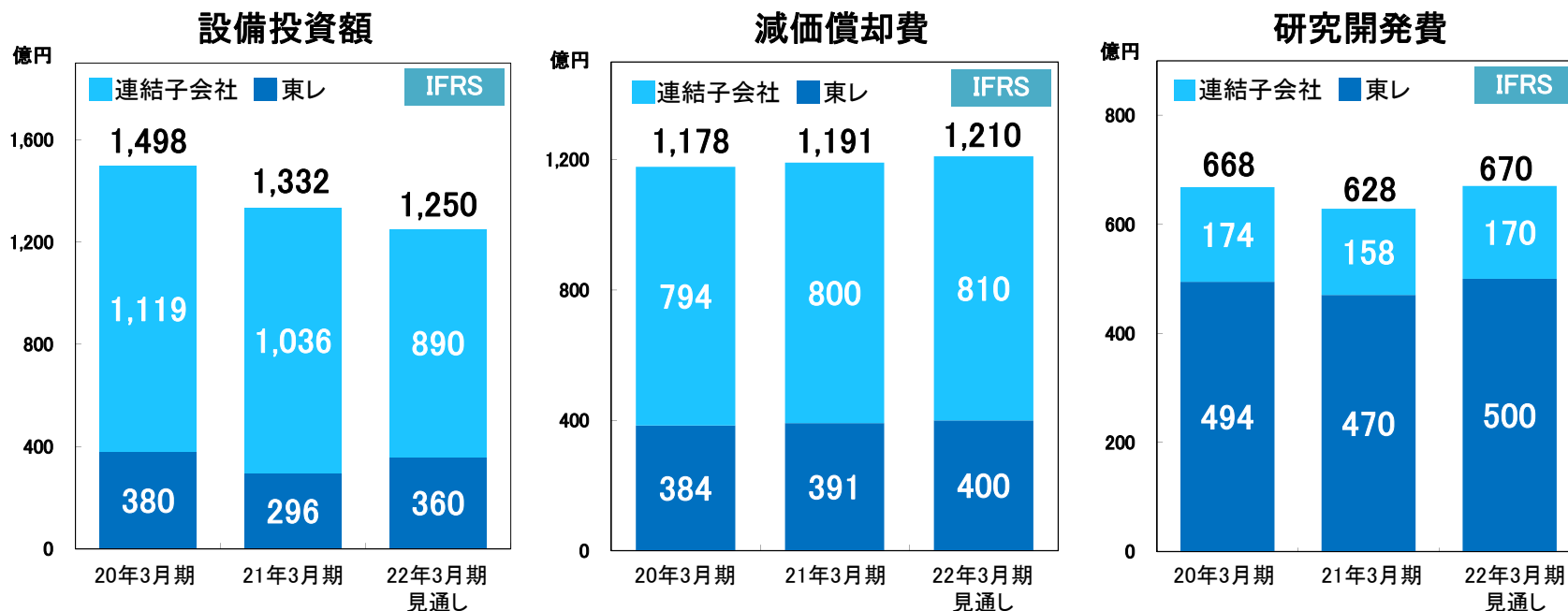
		21年3月期実績			22年3月期見通し			増減		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上収益	繊維	3,302	3,890	7,192	3,850	4,300	8,150	+548	+410	+958
	機能化成品	3,273	3,931	7,204	3,950	4,200	8,150	+677	+269	+946
	炭素繊維複合材料	893	936	1,829	1,000	1,130	2,130	+107	+194	+301
	環境・エンジニアリング	782	1,153	1,935	930	1,150	2,080	+148	-3	+145
	ライフサイエンス	247	283	530	250	290	540	+3	+7	+10
	その他	63	82	146	70	80	150	+7	-2	+4
	合計	8,561	10,275	18,836	10,050	11,150	21,200	+1,489	+875	+2,364
事業利益	繊維	158	208	366	260	290	550	+102	+82	+184
	機能化成品	241	429	670	360	400	760	+119	-29	+90
	炭素繊維複合材料	▲ 3	▲ 72	▲ 75	▲ 50	20	▲ 30	-47	+92	+45
	環境・エンジニアリング	40	106	145	40	120	160	+0	+14	+15
	ライフサイエンス	8	5	13	0	0	0	-8	-5	-13
	その他	6	24	29	5	15	20	-1	-9	-9
	調整額	▲ 109	▲ 137	▲ 246	▲ 115	▲ 145	▲ 260	-6	-8	-14
	合計	341	562	903	500	700	1,200	+159	+138	+297

セグメント別事業利益 21年3月期vs22年3月期比較

(事業利益、億円)

セグメント	21年 3月期	22年 3月期	前期比	増減益要因
繊維	366	550	+184	<ul style="list-style-type: none"> ・衣料用途は、糸綿／テキスタイル／製品一貫型ビジネスの拡大に取り組むとともに、スポーツ、カジュアルウェアやサステナブル素材等需要が堅調な分野での拡販を推進する。 ・産業用途は、エアバッグ用基布や人工皮革等の自動車用途を中心に需要の回復を見込む。
機能化成品	670	760	+90	<ul style="list-style-type: none"> ・樹脂事業では、ABS樹脂、エンブラともに販売量の増加を見込む。 ・フィルム事業では、MLCC離型フィルム、バッテリーセパレータフィルム、高機能包装フィルム等の高付加価値品の拡販を推進。 ・電子情報材料事業は、有機EL関連材料や回路材料等での需要増加を見込む。
炭素繊維 複合材料	▲75	▲30	+45	<ul style="list-style-type: none"> ・航空機用途では、新型コロナウイルスの影響に伴う大手顧客の生産機数引き下げの影響は継続する見通し。 ・スポーツ用途では、アウトドアレジャー用途が好調に推移する見通し。 ・一般産業用途では、風力発電翼用途や圧力容器向け等の需要が拡大する見込み。
環境・ エンジニアリング	145	160	+15	<ul style="list-style-type: none"> ・水処理事業では、RO膜の中東向け大型案件の出荷や中国水処理膜新会社の稼働開始を見込む。 ・水処理エンジニアリング子会社では、官需向け販売拡大を見込む。
ライフサイエンス	13	0	-13	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬事業が薬価改定と後発医薬品の影響を受ける見込み。 ・営業活動回復や製品開発費の増加により、営業費の増加を見込む。
その他	29	20	-9	
調整額	▲246	▲260	-14	
合計	903	1,200	+297	

設備投資額・減価償却費・研究開発費の推移



主な設備投資案件

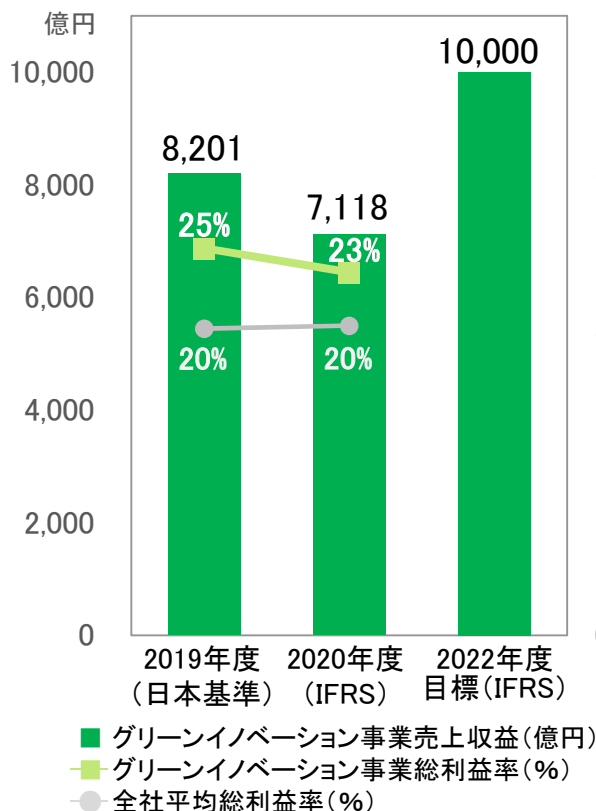
2021年3月期	Toray Industries Hungary Kft.	: バッテリーセパレータフィルム“セティーラ®”生産設備
	Zoltek Zrt.	: 炭素繊維生産設備
	Toray Plastics (America), Inc.	: ポリプロピレンフィルム生産設備
2022年3月期	Toray Membrane (Foshan) Co.,Ltd.	: RO製膜生産設備
	東レ株式会社	: ポリプロピレンフィルム生産設備
	Alcantara S.p.A.	: “Alcantara®”生産設備

Ⅲ. 中期経営課題“プロジェクト AP-G 2022” の進捗状況

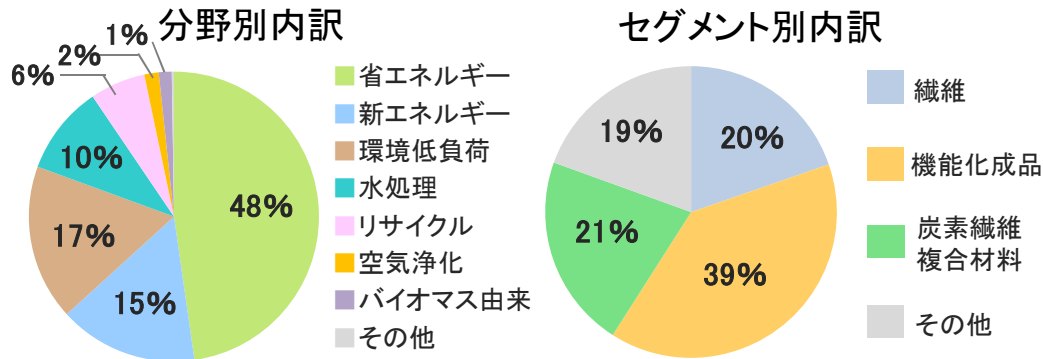
グリーンイノベーション(GR)事業

グリーンイノベーション事業の 売上高・売上収益推移

リサイクルや新エネルギーの分野は伸
長も、航空機用炭素繊維等の省エネ
ギー分野が低調に推移し、前期比減収



2020年度 売上収益 7,118億円 分野別・セグメント別内訳



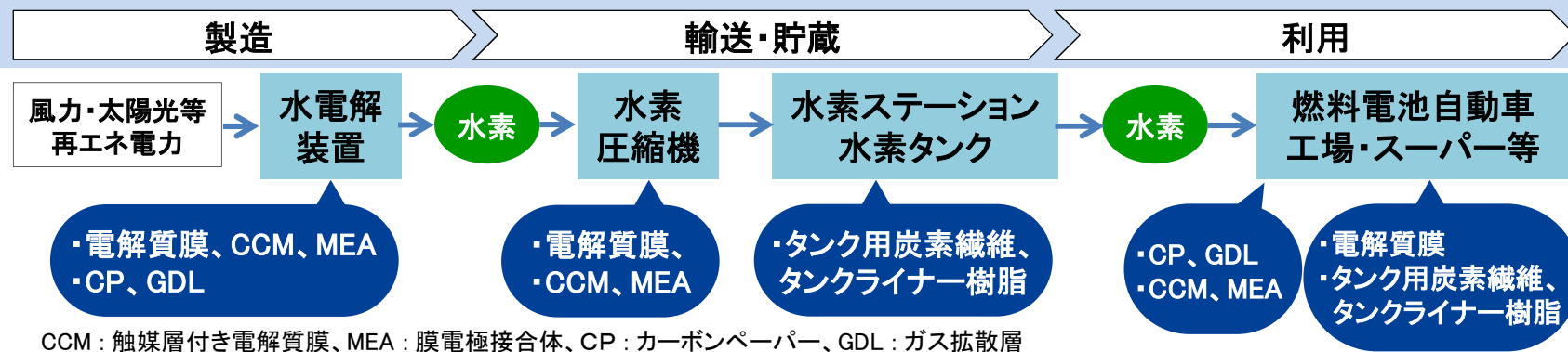
2020年度の主な取り組み

- 土浦工場における二軸延伸ポリプロピレンフィルムトレファン®の生産能力増強を決定(20年5月)
- 電動自動車(xEV)向け車載コンデンサ用高耐熱・高耐電圧二軸延伸ポリプロピレンフィルム「トレファン®新世代グレード」を開発、本格生産を開始(20年9月)
- UAM(Urban Air Mobility)用途向け炭素繊維複合材料の供給契約をドイツのLilium社と締結(20年7月)
- スペインのSP Group社と世界で初めて100%VOCフリー水なしEBオフセット印刷技術の実証に成功(20年9月)
- 世界最大級の膜面積を持つ中空糸膜型限外ろ過(UF)膜が中国・無錫市の大型廃水処理設備に採用され、本格稼働を開始(2020年6月)
- バーレーン王国とアラブ首長国連邦の海水淡水化プラント向けに、あわせて91万m³/日の大規模な造水量を生む逆浸透(RO)膜の受注を獲得(20年11月)
- サステナブルな社会の実現に貢献する環境配慮型ポリエステルフィルム「Ecouse®」シリーズを開発(20年12月)

水素社会実現に向けた取り組み

水素の製造、輸送・貯蔵、利用の全てで幅広く基幹素材を開発

東レGの製品・開発品



CCM : 触媒層付き電解質膜、MEA : 膜電極接合体、CP : カーボンペーパー、GDL : ガス拡散層

<取り組み例①> Power to Gas システム技術開発(山梨県、東京電力HD共同)

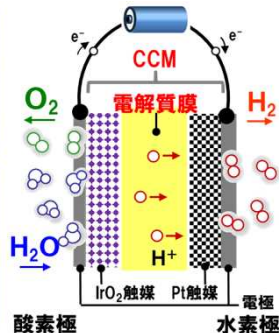
- ・NEDO* 事業で開発した国内初2.3MW級PEM型水電解/P2Gシステムの運転を開始(2021年4月)
- ・山梨県内の工場やスーパー向けにグリーン水素出荷を全国に先駆けて開始予定(2021年6月)

<取り組み例②> 独・子会社 Greenerity GmbH (PEM型水電解CCMのNo.1供給実績)

- ・第2工場(MEA、CCMの大規模量産工場)建設中(2022年稼働予定)



P2Gシステム技術開発
山梨県米倉山電力貯蔵技術研究サイト



PEM型水電解
構成・原理



2.3MW級PEM型水電解実証機
(日立造船協力)

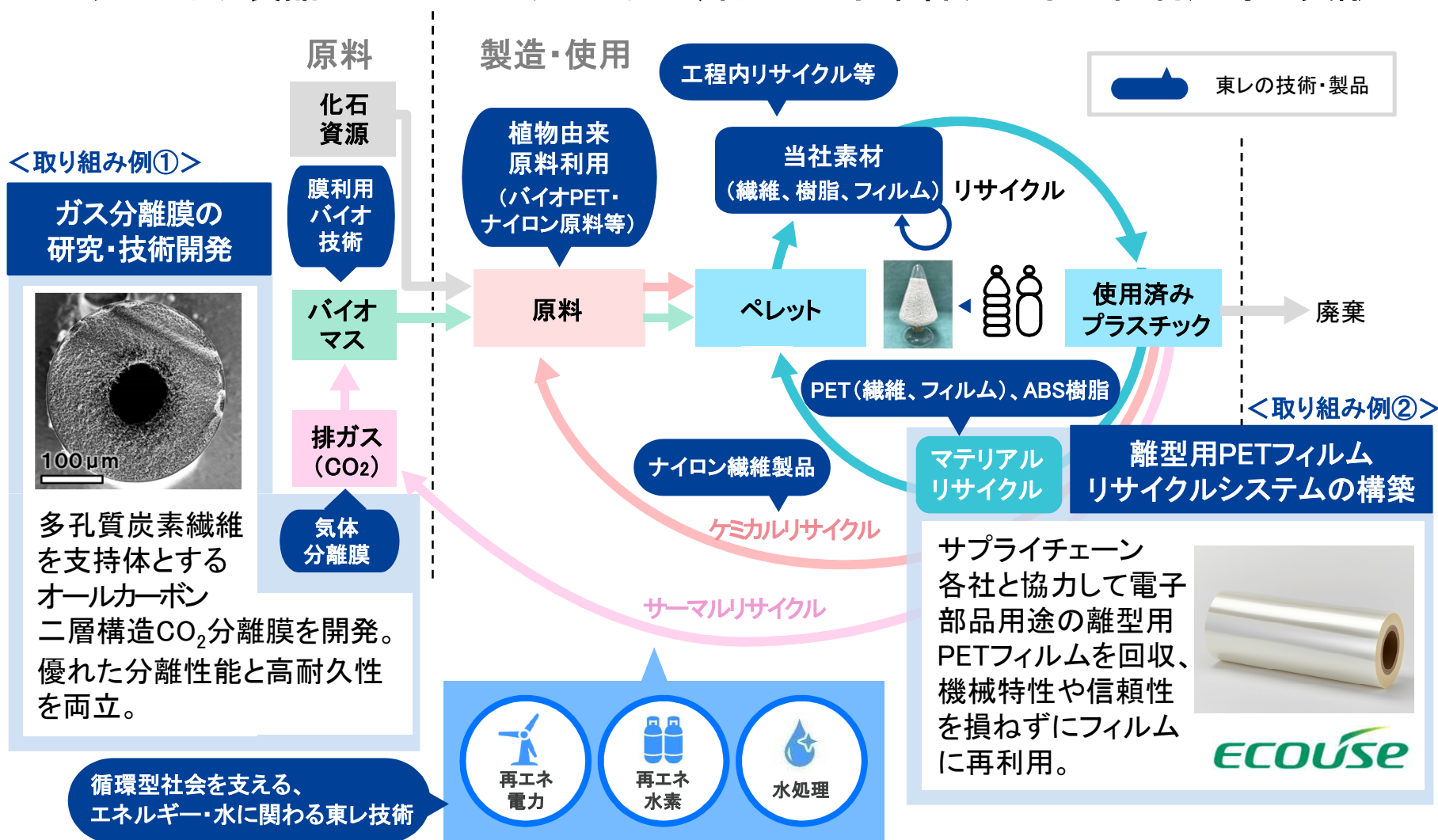


Greenerity第2工場(MEA・CCM量産工場)
完成予想図(独・バイエルン州)

* 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

循環型社会の実現に向けた取り組み

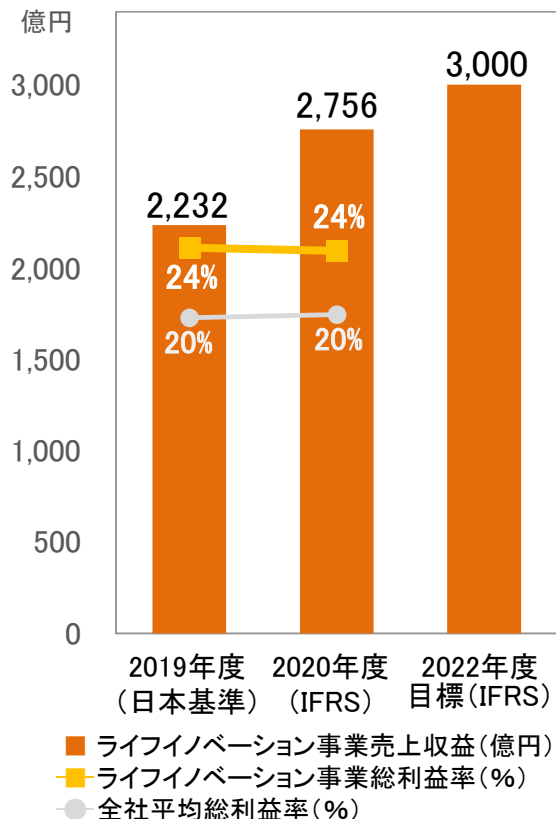
プラスチック製品のバイオ化・リサイクル、再エネ・水素普及や水の再利用等に貢献



ライフイノベーション(LI)事業

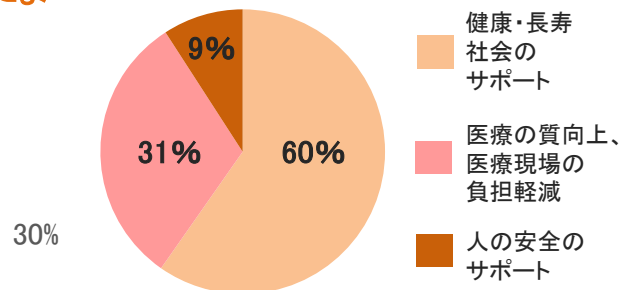
ライフイノベーション事業の 売上高・売上収益推移

「人の安全」領域の追加、医療用ガウン
やマスク用途向け不織布の出荷増により
前期比増収



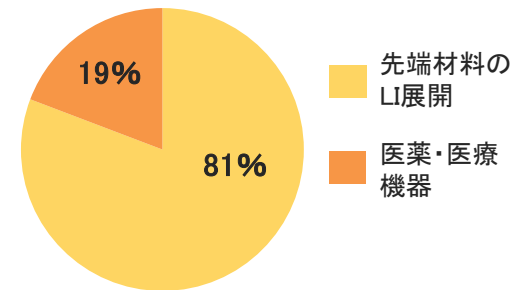
2020年度 売上収益 2,756億円 分野別・事業別内訳

分野別内訳



事業別内訳

(先端材料のLI展開/医薬・医療機器)



2020年度の主な取り組み

- トレミキシン[®]がカナダで新型コロナウイルス感染症に対する暫定使用承認を取得(20年4月)。米国ではライセンス先企業がFDAからIDE (Investigational Device Exemption: 治験用医療機器の適用免除)を承認取得し、臨床試験に新型コロナウイルス感染症患者群を追加検証中。
- マスク用不織布の供給体制を国内外で新型コロナ禍前の5倍(1億枚/月)に拡大。日本政府からの要請に基づく国内生産による医療用ガウンの納入を決定(20年5月~)
- 優れた洗濯耐久性と着用快適性を有する抗ウイルステキスタイル「MAKSPEC[®]V」を開発し、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)のウイルス数減少効果を確認(21年3月)
- 多くのがん種で薬効が期待でき、新しいコンセプトの抗体医薬になりうると期待するTRK-950。2017年3月にフェーズ I の臨床試験を米国とフランスで開始以降、100例以上に投与し現時点までに安全性に問題がないとの報告を受けている*。今後、更に安全性や有効性を確認し、早期申請を目指す。

* 最終結果ではありません

経営基盤強化

資金効率の改善による 財務構造の強化

■ フリー・キャッシュ・フロー

2020年度実績	2022年度目標
1,137億円	1,200億円以上*1 (3年間累計)

*1: M&Aを除く

■ 運転資本

- 事業別に効率性指標としてCCC(キャッシュコンバージョンサイクル)を導入し、CCC短縮を目指した「3C-i活動」を展開。在庫日数の削減を推進。

	20年3月末	21年3月末	増減
棚卸資産	4,053億円	3,691億円	-362億円
在庫日数*2	90.0日	81.6日	-8.4日

*2: 下期(10月-3月)の売上原価をベースに算出

■ D/Eレシオ

2020年度実績	2022年度目標
0.79	0.8程度 (ガイドライン)

低成長・低収益事業の 事業構造改革

■ ポリエステル・綿混織物(T/C)事業の 構造改革

- コロナ禍での不可逆的なシャツ需要減に対応し、2020年6月にPenfabric Sdn. Berhadの紡績工場を収束。これを受けて、生機*3供給等のグループ連携を一層強化するとともに、ワークウェア、カジュアル、防疫用途への展開に注力。

*3: 染色・後加工前の織物

■ 国内繊維子会社の事業構造改革

- 国内市場規模は漸減傾向。各社不採算事業からの撤退、高収益事業への重点化を柱とする事業構築改革を東レグループ一体となり推進中。

■ 炭素繊維複合材料事業の米国子会社における収益改善の取り組み

- Toray Composite Materials America, Inc.で人員整理と減損損失の計上を実施。在庫適正化に向けた大規模な稼働調整は2020年度で終了。需要が伸長する分野への拡販を図る。

2022年度 財務目標

億円

	2020年度実績	2021年度見通し	2022年度目標
売上収益	18,836	21,200	26,000
事業利益	903	1,200	1,800
事業利益率	4.8%	5.7%	7%
ROE	3.9%	6%程度	約9%
ROA	3.2%	4%程度	約7%
フリー・キャッシュ・フロー	1,137	プラスの見通し	1,200億円以上 (3年間累計)
D/Eレシオ	0.79	ガイドライン(0.8程度) に沿った管理	0.8程度 (ガイドライン)
配当性向	31%	32%	30%程度

“AP-G 2022”為替レート前提:105円/US\$

ROA=事業利益/総資産

ROE=親会社の所有者に帰属する当期利益/自己資本

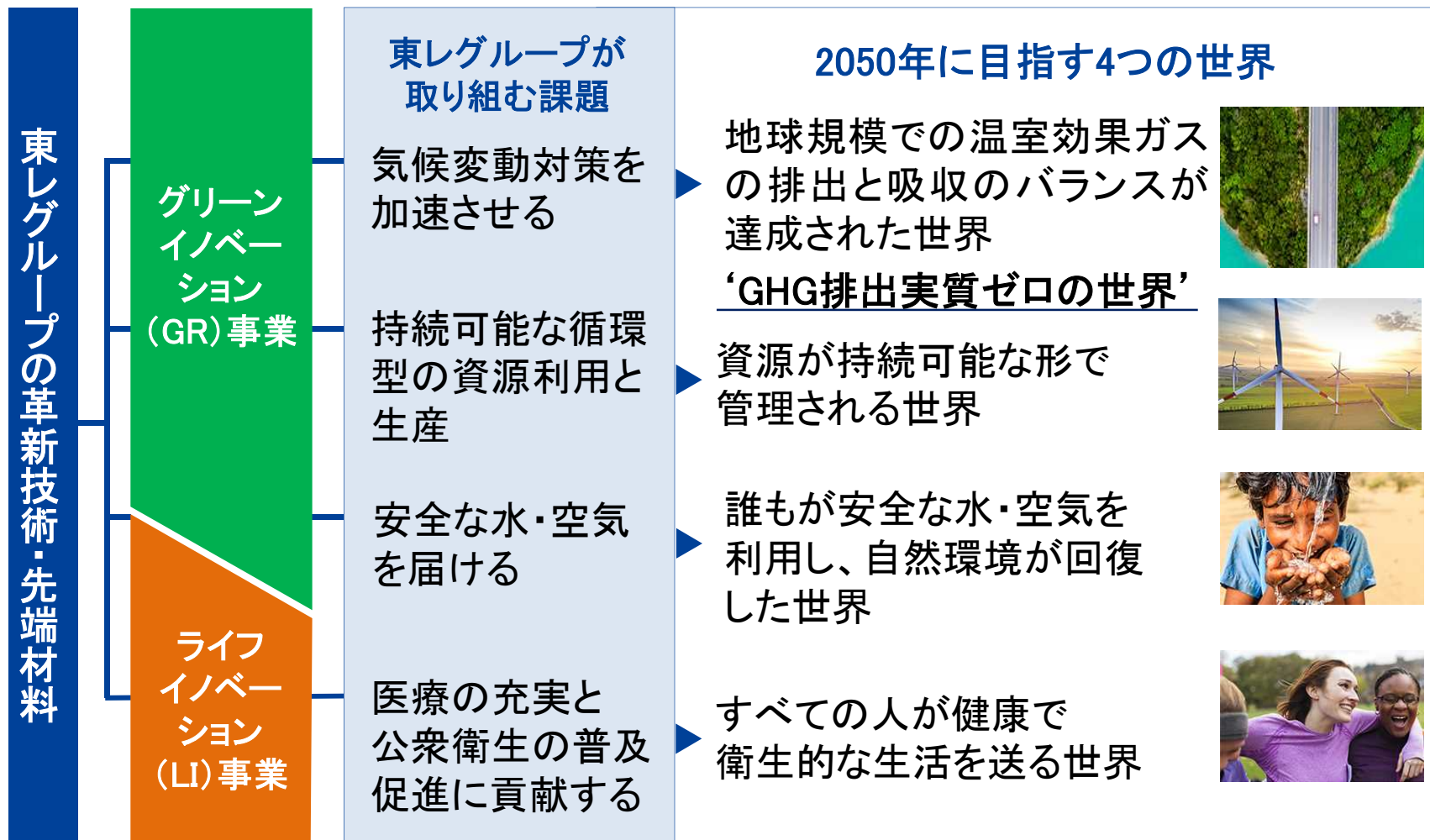
サステナビリティ目標

	2013年度実績 (基準年度) (日本基準)	2020年度実績 (2013年度比) (IFRS)	2022年度目標 (2013年度比) (IFRS)	2030年度目標 (2013年度比) (IFRS)
GR売上高・売上収益	4,631億円	7,118億円 (1.5倍)	10,000億円 (2.2倍)	4倍
LI売上高・売上収益	1,196億円	2,756億円 (2.3倍)	3,000億円 (2.5倍)	6倍
CO ₂ 削減貢献量	0.4億トン	6.4倍	5.3倍	8倍
水処理貢献量	2,723万トン／日	2.0倍	2.4倍	3倍
生産活動によるGHG 排出量の売上高・売上 収益原単位	337トン／億円	290トン／億円 (14%削減)	20%削減	30%削減
生産活動による用水 使用量の売上高・売上 収益原単位	15,200トン／億円	12,520トン／億円 (18%削減)	25%削減	30%削減

IV. サステナビリティへの取り組み

東レグループ サステナビリティ・ビジョン*

2050年に向け東レグループが目指す世界と取り組む課題



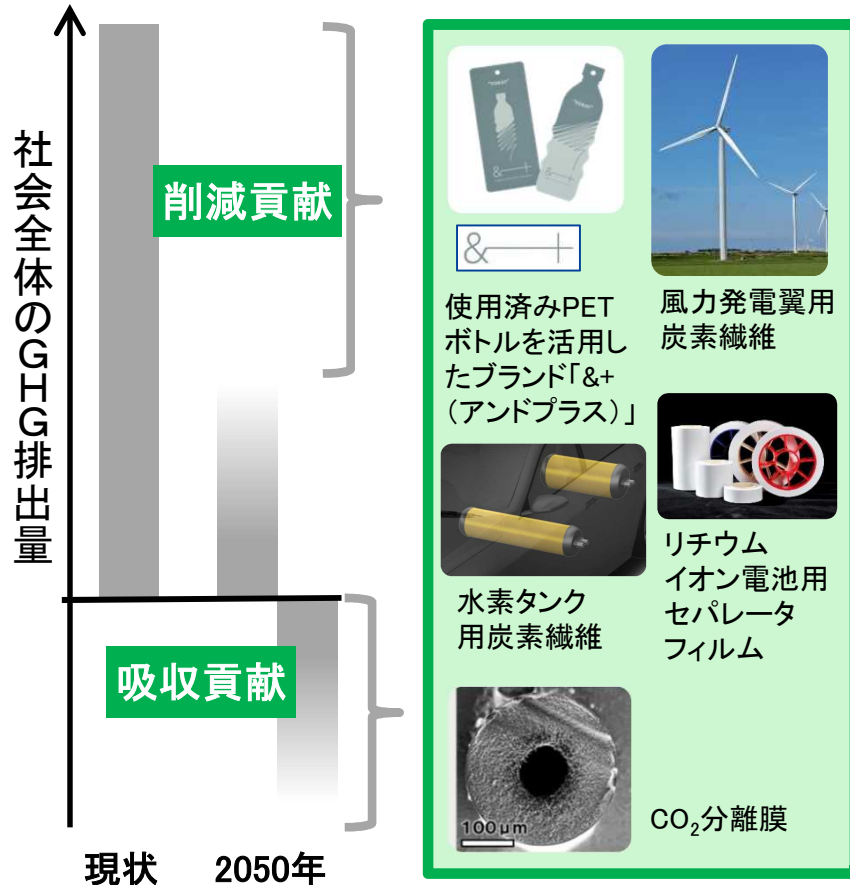
* 以下、「サステナビリティ・ビジョン」

2050年カーボンニュートラル実現に向けた取り組み

～ネットゼロエミッション社会への移行(トランジション)に向け、技術の開発・普及・実装にチャレンジ～

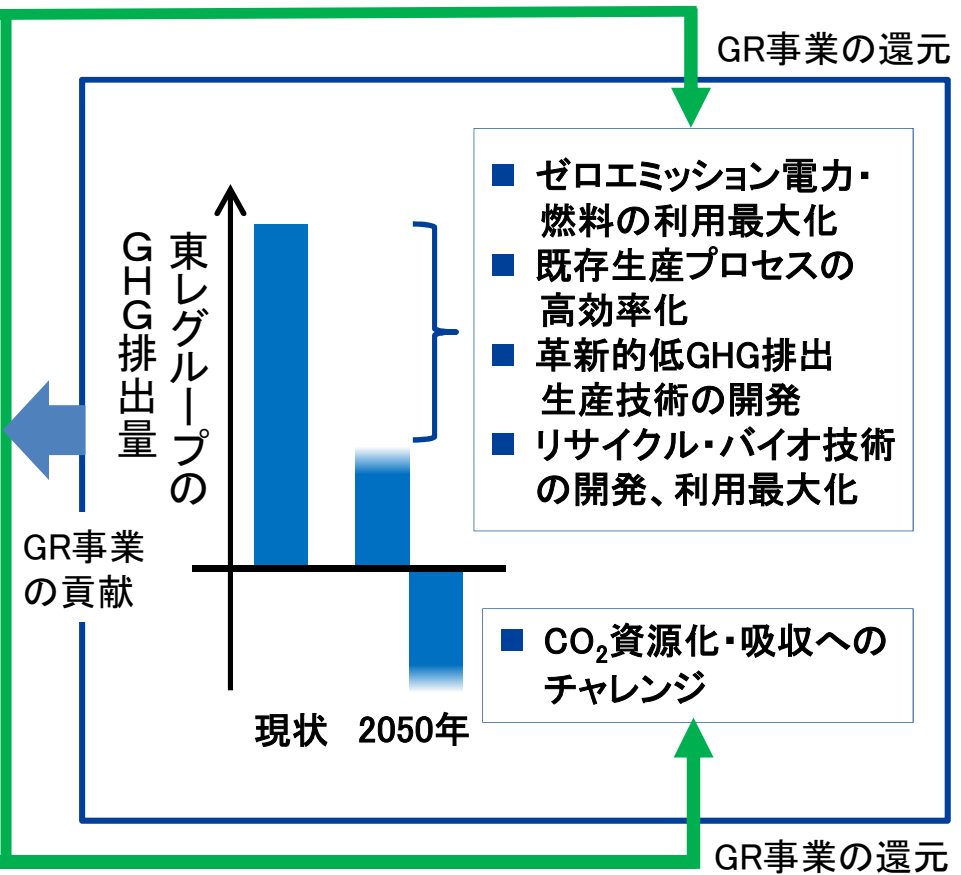
GR事業によるGHG削減貢献拡大

再エネ、水素、電動化関連素材等GR事業で、カーボンニュートラル技術の進化を支える



事業活動のGHG削減技術導入

持続可能なエネルギー・原料利用、革新プロセス、CO₂資源化技術等でトータルの排出量削減



社会のカーボンニュートラル実現に貢献

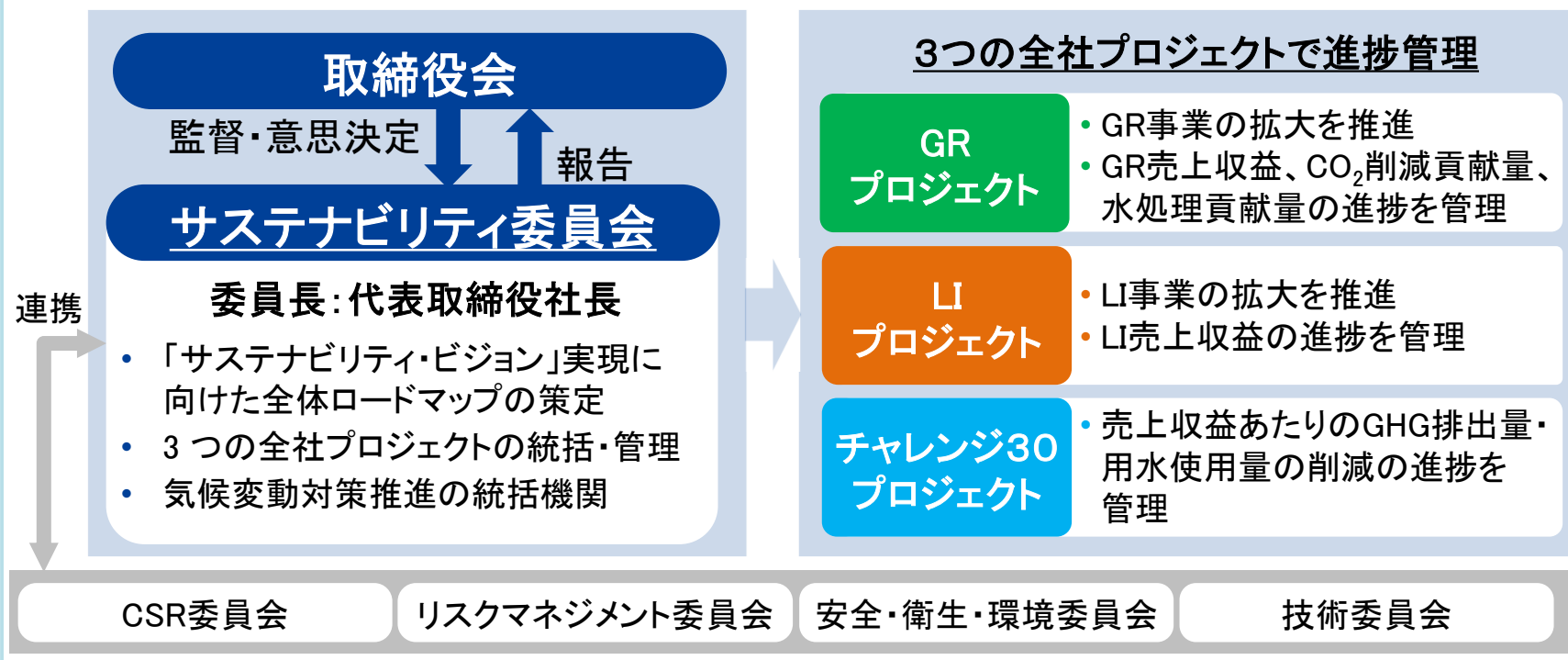
自社のカーボンニュートラル化を目指す

気候変動問題に関するガバナンス体制

東レグループの地球環境問題への取り組み

1990年代	・地球環境研究室を設立	・全社委員会として地球環境委員会を設置
2000年代	・「環境3カ年計画」の策定	・地球環境事業戦略推進室を設立
2010年代	・GR事業拡大への取り組み	・「サステナビリティ・ビジョン」の策定

2021年4月 サステナビリティ委員会を設置し、従来の取り組みを強化・加速



気候変動による影響の分析

TCFD提言に沿ったシナリオ分析の実施




- 気候変動の影響が特に大きいと考えられる衣料用合成繊維・電動車・航空機・風力発電・リチウムイオン電池・次世代電池・燃料電池・水処理の各市場に重点を置き、2030～2050年を対象に、1.5°Cシナリオを中心に2°C、4°Cのシナリオでも分析を実施。

機会・リスクの分析結果

- 機会：GR事業を中心とした気候変動を緩和する事業の機会は大きく、気候変動対策が進むほど事業機会は大きくなる可能性がある。
- リスク：炭素税負担・GHG排出規制リスクが大きい「サステナビリティ・ビジョン」の目標達成に向けたGHG排出削減の取り組みによって低減可能。
- 「サステナビリティ・ビジョン」は気候変動がもたらす社会の変化に対応したものであり、当社の長期戦略に変更の必要はないが、今後も社会変化に応じて分析内容を定期的に補完、更新する。

【気候変動に関連する主要な機会・リスクと対応(抜粋*1)】

*1 東レグループTCFDレポート2021より一部を抜粋

社会の変化	主要な機会・リスク		東レグループの対応	機会・リスクの大きさ*2		
				1.5°C	2°C	4°C
再生可能エネルギーの比率上昇	機会	<ul style="list-style-type: none"> 再エネ関連事業の拡大 蓄電池関連事業の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 風力発電用炭素繊維  バッテリーセパレータフィルム 	大		
	リスク	<ul style="list-style-type: none"> 電力コストの増加 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネの取り組み 			
炭素税、GHG排出目標の設定・引き上げ	機会	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ関連事業の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 軽量化素材  断熱・遮熱製品  機能性衣料 	大		
	リスク	<ul style="list-style-type: none"> 炭素税の負担、化石資源由来原燃料の調達コスト増加 	<ul style="list-style-type: none"> GHG排出削減 			

*2 事業にもたらす影響の大きさにより、大中小の3段階に分類。各気候シナリオで同じ大きさの分類であってもその分類の中で程度に差が生じると考えられる場合には、グラデーションをつけ、より影響が大きいと判断した方を濃い色とした。

V. 參考資料

2020年3月期 IFRS適用に伴う影響

億円

20年3月期 実績				差異	主な差異の内容
日本基準		IFRS			
売上高	22,146	売上収益	20,912	-1,235	代理人取引の純額表示、収益認識時点の変更
営業利益	1,312	事業利益	1,255	-57	のれんの非償却、営業外収支の組替
税前利益	940	税引前当期利益	1,233	+293	のれんの非償却、投資有価証券の評価・売却損益の取消
親会社株主に 帰属する 当期純利益	557	親会社の所有者 に帰属する 当期利益	842	+285	

2020年3月期 IFRS適用に伴う影響 セグメント別

億円

		20年3月期 実績		差異	主な差異の内容
		日本基準	IFRS		
売上高・売上収益	繊維	8,831	8,310	-522	<ul style="list-style-type: none"> ・代理人取引の純額表示 ・収益認識時点の変更
	機能化成品	7,708	7,612	-96	
	炭素繊維複合材料	2,369	2,369	-0	
	環境・エンジニアリング	2,523	1,908	-614	
	ライフサイエンス	533	530	-2	
	その他	182	182	+0	
	合計	22,146	20,912	-1,235	

		20年3月期 実績		差異	差異内訳	
		日本基準	IFRS		のれん非償却	その他
営業利益・事業利益	繊維	607	596	-11	+0	-11
	機能化成品	587	545	-42	+43	-85
	炭素繊維複合材料	210	226	+16	+63	-47
	環境・エンジニアリング	112	106	-7	+3	-10
	ライフサイエンス	16	5	-11	-	-11
	その他	34	36	+2	-	+2
	調整額	▲ 255	▲ 258	-4	-	-4
	合計	1,312	1,255	-57	+109	-166

セグメント別四半期売上収益推移

IFRS

億円

	20年3月期					21年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
繊維	1,958	2,265	2,190	1,897	8,310	1,450	1,852	2,061	1,829	7,192
機能化成品	1,975	1,966	1,879	1,792	7,612	1,556	1,717	1,926	2,005	7,204
炭素繊維複合材料	615	584	596	573	2,369	454	439	456	479	1,829
環境・エンジニアリング	418	454	432	605	1,908	372	410	464	689	1,935
ライフサイエンス	125	141	138	127	530	116	131	137	146	530
その他	42	49	41	51	182	29	34	37	45	146
合計	5,132	5,458	5,275	5,046	20,912	3,976	4,584	5,081	5,194	18,836

セグメント別四半期事業利益推移

IFRS

億円

	20年3月期					21年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
繊維	145	172	163	116	596	72	86	122	86	366
機能化成品	169	164	138	75	545	81	160	236	193	670
炭素繊維複合材料	64	54	63	45	226	17	▲ 20	▲ 34	▲ 38	▲ 75
環境・エンジニアリング*	14	24	17	51	106	8	32	40	65	145
ライフサイエンス	5	6	6	▲ 11	5	1	8	9	▲ 5	13
その他	4	9	7	15	36	1	4	12	12	29
調整額	▲ 56	▲ 59	▲ 66	▲ 77	▲ 258	▲ 55	▲ 53	▲ 56	▲ 81	▲ 246
合計	345	370	327	214	1,255	125	216	329	233	903

機能化成品サブセグメント別四半期売上収益推移

IFRS

億円

	20年3月期					21年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
樹脂・ケミカル	843	796	809	755	3,204	597	719	872	904	3,092
フィルム	794	787	769	760	3,109	694	751	785	801	3,031
電子情報材料	162	193	174	144	674	146	176	176	180	678
商事他	1,097	1,002	996	980	4,074	877	868	1,045	1,103	3,893
修正	▲ 922	▲ 812	▲ 869	▲ 846	▲ 3,449	▲ 757	▲ 797	▲ 952	▲ 983	▲ 3,489
合計	1,975	1,966	1,879	1,792	7,612	1,556	1,717	1,926	2,005	7,204

炭素繊維複合材料サブセグメント別四半期売上収益推移

IFRS

億円

	20年3月期					21年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
航空宇宙	292	265	268	254	1,078	174	161	148	116	600
スポーツ	49	42	44	35	170	32	37	41	46	155
一般産業	274	278	284	284	1,120	249	241	267	317	1,074
合計	615	584	596	573	2,369	454	439	456	479	1,829

主要子会社・地域の四半期売上収益推移

IFRS

億円

		20年3月期					21年3月期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
東レインターナショナル		1,396	1,526	1,583	1,251	5,755	1,111	1,227	1,413	1,244	4,995
東レエンジニアリング		234	266	261	367	1,127	175	201	244	417	1,037
東レ建設		82	101	81	169	434	55	97	131	118	400
東レフィルム加工		93	99	96	87	375	93	85	92	89	359
在東南 アジア・ 子会社	繊維	347	356	335	319	1,357	187	236	275	302	1,000
	機能化成品	232	215	217	190	854	154	205	246	268	872
	その他	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1
	計	579	571	553	509	2,212	341	441	522	570	1,874
在中国・ 子会社	繊維	506	608	563	375	2,051	401	561	611	411	1,984
	機能化成品	217	191	204	165	777	189	212	251	249	901
	その他	91	87	103	67	348	90	89	98	77	354
	計	815	886	870	606	3,177	680	862	961	737	3,239
在韩国・ 子会社	繊維	208	206	215	214	843	182	194	199	222	796
	機能化成品	387	406	401	372	1,566	312	371	398	393	1,474
	その他	75	72	66	53	266	50	52	59	67	227
	計	671	684	681	639	2,675	543	617	656	681	2,497

主要子会社・地域の四半期事業利益推移

IFRS

億円

		20年3月期					21年3月期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
東レインターナショナル		29	36	36	28	129	19	33	33	25	109
東レエンジニアリング		4	7	5	20	36	▲ 6	▲ 0	13	35	41
東レ建設		▲ 2	1	▲ 2	10	6	▲ 4	7	7	1	11
東レフィルム加工		5	7	8	5	26	8	10	11	12	41
在東南 アジア・ 子会社	繊維	14	13	14	5	48	▲ 12	▲ 7	▲ 7	4	▲ 23
	機能化成品	19	12	15	16	63	14	42	63	64	183
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	33	26	30	22	110	2	35	56	67	160
在中国・ 子会社	繊維	56	58	51	30	195	49	50	45	24	168
	機能化成品	7	7	9	8	32	10	10	15	15	50
	その他	7	7	6	2	23	8	8	9	5	31
	計	71	72	66	41	250	67	68	69	45	249
在韩国・ 子会社	繊維	5	8	10	7	30	28	24	16	1	68
	機能化成品	57	68	64	44	233	45	58	56	37	195
	その他	12	10	5	6	34	8	7	6	7	29
	計	74	86	79	57	296	81	89	77	45	292

従業員数、関係会社の異動

従業員数

(人)

	20年3月末	21年3月末	増減
東レ単体	7,568	7,420	-148
国内連結子会社	10,430	10,246	-184
海外連結子会社	30,033	28,601	-1,432
合計	48,031	46,267	-1,764

関係会社の異動

(社)

		20年3月末	21年3月末	増減
連結子会社	国内	62	63	+1
	海外	123	124	+1
	(a) 計	185	187	+2
持分法適用子会社	国内	27	27	±0
	海外	34	33	-1
	(b) 計	61	60	-1
子会社	国内	89	90	+1
	海外	157	157	±0
	(a)+(b) 計	246	247	+1
持分法適用関連会社	国内	13	13	±0
	海外	23	23	±0
	(c) 計	36	36	±0
連結対象会社合計	国内	102	103	+1
	海外	180	180	±0
	(a)+(b)+(c) 計	282	283	+1

ESGに関する社外からの評価

■ CDP



WATER

2020年12月
Water Security: A
Climate Change: B

■ S&P Global Sustainability Yearbook Member

Sustainability Yearbook 2021年2月
Member 2021

S&P Global

■ 海外主要インデックスの構成銘柄に選定

MEMBER OF

**Dow Jones
Sustainability Indices**

In Collaboration with RobecoSAM ●

2020年11月

「Dow Jones Sustainability Index(DJSI)」のAsia Pacific



FTSE4Good
2020年6月
「FTSE4Good Index Series」

2020 MSCI ESG Leaders
Indexes Constituent

2020年7月
「MSCI ESG Leaders Indexes」

■ GPIFが採用するESG指数の構成銘柄に選定



FTSE Blossom
Japan

2020 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

本資料中の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

TORAY

Innovation by Chemistry